

自己紹介



西垣 翔太

2020年4月東京都渋谷区から移住（京都市出身）

■経歴

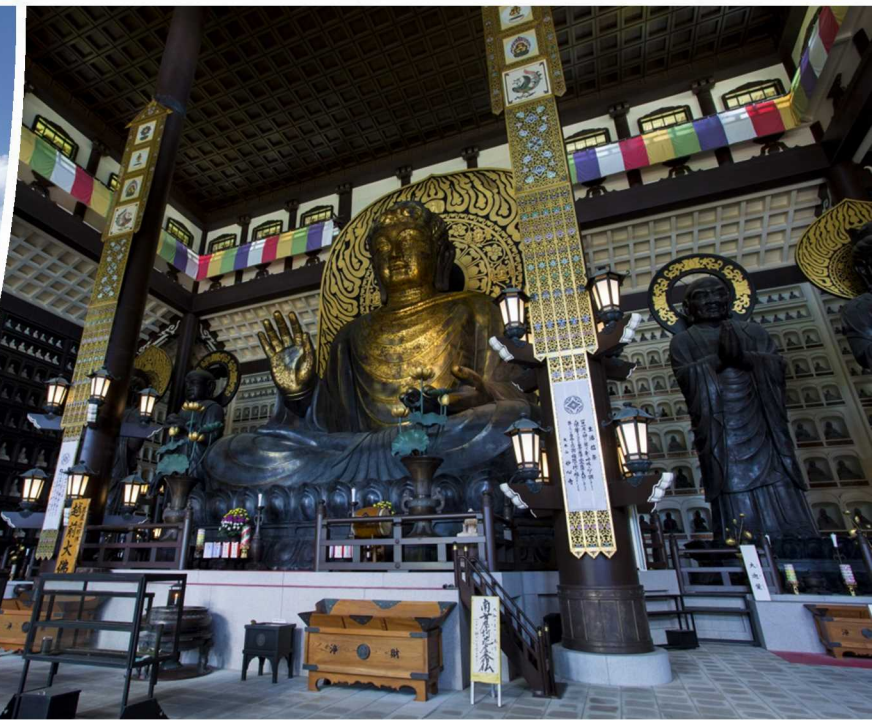
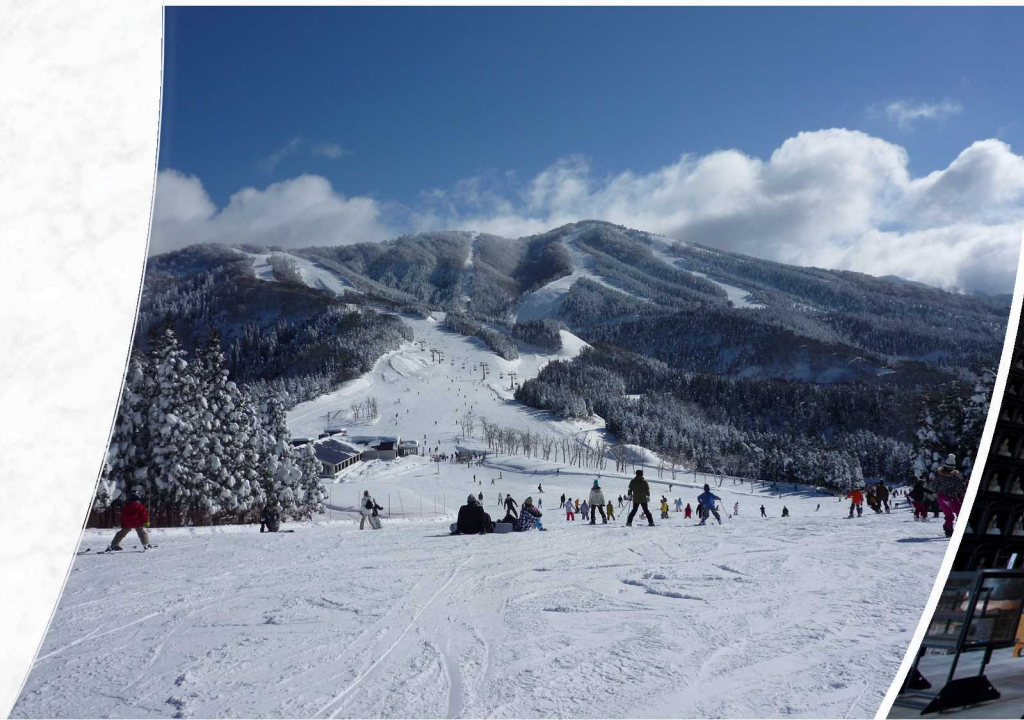
- 1, 学生時代は、公共政策学科にてまちづくり、NPO・NGOなどを専攻。フィールドワークにて過疎地域やシャッター商店街の聞き取りなどを実施。卒業後は、人材広告会社へ就職し、その後、ソーシャルイノベーション塾へ。
- 2, 京都にて産学連携のコーディネーションを行うNPOの立ち上げメンバーとして約4年間従事し、企業連携など幅広いプロジェクトをコーディネート。約1年コワーキングオフィスの運営にも関わる。
- 3, 2018年、東京にて友人とデザイン、映像制作、プロモーションを行う会社を起業。メイン事業として、地方のインバウンド向け映像制作、プロモーションを行う。案件は、単年度事業の仕事が多く、1つの地域にリサーチから長く関わる機会が欲しかった。同隊員の太田氏の縁で現職へ。

勝山の魅力

- ・世界3大恐竜博物館の1つが、日本の中で唯一ここにある

- ・自然資源（夏は川、冬は雪とスノボ・スキー）が豊かである

- ・越前大仏など知られていないニッチな観光資源が豊富にある



本年度の3つのミッション

- 1.国内外への観光プロモーションに向けたリサーチ、戦略の設計、コンテンツ開発、PR など
- 2.UI ターン促進に向けた取組み(首都圏等でのPR対策検討)
- 3.ゲストハウスやコワーキングスペース、カフェ等のまちなか拠点スペース整備の検討

特に力を入れたこと

関係人口創出のためのリサーチ・コンテンツづくり

1. 勝山のブランド力と認知度をあげる仕組みづくり
2. 新たな層の呼び込みのための体験コンテンツづくり
3. 町の中にエンジンを生み出す準備

ターゲット

現状、観光等で来訪している層以外の新たなターゲット

1. 場所にとらわれずプロジェクト等に関わることができる人
2. 地方創生、まちづくり、移住などに関心が高い人
3. トレンドやクリエイティブなことに敏感で発信力が高い人

2020年度の主な活動一覧

① 恐竜×クリエイティブ (海外デザイナー招聘プログラム)

- ・デザイナー滞在プログラム企画
- ・現地交渉、メディア対応
- ・オンラインイベントの企画、開催



② テントサウナ体験コンテンツづくり (太田氏との共同プロジェクト)

- ・テントサウナ候補地探し&ロケハン
- ・テントサウナイベント企画・当日運営
- ・地域資源×サウナのリサーチ・企画



③ ワークेशनプラン企画、体験者アテンド (県定住交流課と連携)

- ・ワークेशनプランの企画、立案
- ・宿泊施設、まちづくり会社への交渉、体験者当日アテンド



④ 地域の観光・体験コンテンツの発掘

- ・鮎釣り体験パッケージの検討
- ・鮎釣り体験者モニターコーディネート
- ・空のテラスハーブガーデン視察



⑤ まちなか拠点づくり

- ・コワーキングスペース、シェアハウスの検討
- ・空き家探し、家主ヒアリング、視察



⑥ オンラインネットワーキング

- ・オンライン移住イベントの企画、開催
- ・「超帰省」コミュニティでの勝山発信





“恐竜のまち” 福井で 恐竜×クリエイティブ

デザイン、アパレル、アート、イラスト、キャラクターなど

多様な分野から募集！



Clubhouse
同時配信予定

オンラインイベント開催

2021.2.17 (Wed) 20:00-20:45



前回の滞在プログラム

日程：2020年10月22日～26日

制作期間：約3ヶ月間

スケジュール：

1日目：道の駅視察、まちづくり会社との打合せ

2日目：古生物学者との恐竜博物館観覧

3日目：勝山市内散策、観光

4日目：制作活動（ラフスケッチ）

5日目：ラフ案提案、東京へ帰宅

その後、11月から2週間に1度の頻度で
まちづくり会社との定例打ち合わせ。





メディア掲載

恐竜題材 キャラ創作へ スペイン人デザイナー

勝山・博物館訪問グッズ化向け



恐竜の化石などから創作のヒントを探る
フランスさん(右から2人目) = 23
日、勝山市の県立恐竜博物館

スペイン出身の3Dキャラクターデザイナー、グラーネ・フランスセスクさん(38)が23日、勝山市の県立恐竜博物館を訪れ、創作のヒントを探った。市域おこし協力隊メンバーの企画で恐

リ」とフランスセスクさん。館内では恐竜の全身骨格化石などを興味深そうに眺め「すごく感動した」と興奮気味に語った。創作に向けては「化石を単体で見たことはあったが、ここにはた

外国人が恐竜キャラ構想

勝山発で新たな恐竜キャラクターを生み出したい。世界を舞台に活躍しているスペイン人のデザイナーが、恐竜のまちで受けるインスピレーションからアイデアを海たいと、市内を巡った。ゆくゆくは市の道の駅に並べられるようなグッズを構想し、よう構想を描く。

(早稲田博)

スペイン人デザイナー

市を訪れているのは3D専門のキャラクターデザイナーでバルセロナ出身のセスク・グラネさん(38)。現在は東京を拠点としている。市域おこし協力隊の西川翔太さん(35)の知人で、グラネさんが恐竜好きということもあって西川さんが招待した。

アーティストが地域に滞在して制作活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス」に近い取り組みで、二十六日まで五日間滞在し、市内を巡ったり、市観光まちづくり会社などと協議したりした。県立恐竜博物館では、古生物学の理学博士・荻野慎彦さんの説明を受けながら骨格模型などを見学構想を練った。グラネさんは「(恐竜博物館での)印象をもっと、ものづくりをしてみたい。勝山のためにがんばりたい」と話していた。一連の行程の中でラフスケッチを描き、同

勝山で骨格模型など見学



FUKU RAPTOR



FUKUI TITANI





今後の展望：開催プログラム例

以下のような恐竜×クリエイティブプログラムを企画し、関係人口を増やしていく

- ・商品開発系プログラム
恐竜グッズの企画・開発など
- ・イベント開催系
アート・デザイン展示、グッズ展など
- ・クリエイティブ系のアイデアソン

勝山に来て感じた課題感

1. 勝山に来訪、移住する目的が仕事または短期滞在の観光が中心
2. 勝山内に外部と接点を生み出すようなスペースやコミュニティが現状、ほぼ無い
3. 勝山市内で人気がある恐竜博物館やスキージャムなどの施設と街中があまりリンクしていない